

# 令和6年度学校評価 学校関係者評価

(※取組に対する学校自身による自己評価について、その適切さを学校評議員から評価いただいた結果)

## 1 本年度の重点目標

「高い志を持って主体的に学校生活に取り組みませることで、生徒一人一人の可能性を伸ばし、自らの未来を切り拓いていくたくましい力を身に付け、地域を支え、地域の人々と共に生きることができる生徒を育成する」  
 (1) 社会で生きる学びを意識した学習指導  
 (2) 地域社会を担う市民として必要な資質の育成を目指した生徒指導  
 (3) 地域とともに生徒を育て、地域からの信頼を高める  
 (4) 職務の基盤となるよりよい人生のために、教職員が安心して働ける環境を作る

## 2 自己評価結果に対する学校関係者評価

A 達成している      B おおそ達成している      C あまり達成していない      D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学習指導	生徒にとって、学ぶ意欲を引き出し、学力を身に付けられるような授業が行われている。	C	これまで通り、学び直しも含めた基礎○基本の学力を身につけることを徹底する。少人数授業を維持し、学力に応じた個別対応を可能な限り実践する。また、授業内容と評価を見直し、生徒のやる気に繋がる学習活動を研究、実践する。	C	B
学校関係者評価委員会における意見	○外部の人（企業人、OB等）を活用し、生の声を伝える授業で生徒の関心を高めて欲しい。 ○国語が課題ならば、朝のHRに読書の時間を設け、1年間継続して行ってみてはどうか。 ○日々の授業で「学ぶ」という行為自体を意識していない、授業内の先生方の努力を受け取れていない、受け取る気が無いという一部の生徒のデータにより-10%という結果になったと思われる。授業に対する先生方の努力を常々感じている生徒は少なからずいる。自己評価は過小評価だと思う。 ○一人一人の背景や対応は違ってくるため、どんな改善策であろうと教員の負担が多くなってしまふ懸念がある。				
進路指導	進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている。	B	各年次における進路行事は、発達段階に応じた内容となっており、生徒たちが自身の進路について考えるよいきっかけになっている。特に、外部講師や企業、上級学校など校外の資産を上手に活用することで、生徒たちは良い刺激を受け、進路を自分事として捉えられていることが意識の向上に繋がっている。	C	B
学校関係者評価委員会における意見	○グループ討議で自分はどんな人間か、何にむいているか等、他人の評価が進路選択の参考になるのではないかと感じる。 ○アンケートを年次別に行うと傾向がもっと詳細にわかるのではないかと感じる。 ○インターンやボランティアなどでは実際に社会で必要とされる経験やスキル等を身につけられる体験は少ないと感じる。 補完するものとして、例えば、部活動や委員会にミニ会社、プレゼンごっこのようなものを増やすのはどうか。学校に必要なと感じる架空の商品や設備などについて、簡単なイラストや概要などを想像して作り上げ、プレゼンで発表するなどすれば、将来に役立つ体験になると思う。人前に立ち、喋るというハードルは高いが、スキルアップに大変効果があり、柔軟性や想像力を高められるとともに、他者の発表を聴くことで良い刺激をたくさん受け、自己の目標の明確化に繋がると思う。自己評価は少し高いと感じる。				
生徒指導	自分にとって、有意義な学校行事がある。	C	特別活動の重要性を生徒も教員も十分に理解し、教育的効果が最大限に得られるようにする。特に、スポーツ大会や文化祭、修学旅行等の行事では、事前及び事後指導まで含めた計画をしっかりと立て、生徒が主体的に活動する環境を整えるとともに、一人ひとりの意見や考えが反映される行事作りを目指す。	C	B
学校関係者評価委員会における意見	○スポーツでもゲームでもチームを編成し競争させることにより、協調性が身に付くのではないかと感じる。 ○月1回程度、生徒が考えたミニイベントを実施してみてもどうか。 ○生徒それぞれの特技や長所が活かされ、活躍できる場を設ける意識が必要。例えば自由研究の発表やeスポーツの場など、それぞれの特色に合わせた憩いの場を作れば、不満を解消できるのではないかと考える。学校のような様々な人間、感性が集う場所では、それぞれが満足する小さい場を用意することが不満の解消に繋がると思う。				
学校の特色	地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる。	A	現状の活動の幅をより広げることで、地域との繋がりが一層強くなると考えられる。新しい取り組みも模索しながら、飯野川校生にとっても地域にとっても良い効果が生まれる活動を生み出していきたい。	A	A
学校関係者評価委員会における意見	○小規模学校の特色を活かしての努力を評価する。地元の婦人会や保育園児等との交流を大事にして下さい。 ○旧河北町で秋に開催される産業祭に出店してみるのはいかがでしょうか。 ○他の委員が仰っていたように、飯野川校でないかと学べない、と思わせる何かを作り、発信する。例えば、他校と協力し、商品開発や販売を実践することは将来に活きる体験になると思う。 ○全国への発信はやはり重要で、学校の承認を得ながらインスタ等で特色を発信する部活動があってもいいのではないかと考える。 ○地域の年配の方々や近くの小中学校の子どもたちと関わる機会を作り、地域の方々から「この学校の生徒たちはアクティブだ」とか、「この学校に行きたい」といなど、良い印象を与え、お墨付きを貰うことも大事だと考える。				

## 3 次年度の課題と改善方策

次年度の課題	改善方策
① より生徒が魅力を感じる授業の実践	すべての授業で「読み」、「書き」を重視しながら、生徒たちが基礎基本をしっかりと身につけ、達成感が得られる指導になるよう研究と実践を繰り返す。
② より生徒が有意義を感じる行事の実践	生徒たちが自ら考え、試行錯誤しながら行事を作っているよう時間的な余裕を持った計画を立てるとともに、教員側が寛容さをもち、生徒が失敗を恐れずに挑戦できる環境を整える。
③ 系統制のある進路指導の実践	各進路行事の目的をもう一度確認し、系統制について整理する。行事に繋がりを持たせるため、自己理解シートや将来設計シートの作成など新たな活動を設け、段階的に進路意識を高めていく工夫を考える。